

NICあれこれ探検隊

このコーナーでは、日ごろあまり表に出ることのないNICの事業やボランティアスタッフの活動などをご紹介します。みなさんの知らなかったNICのあれこれを見つけてみてください。

NICの行政相談

NICでは地域に住む外国人の方からのさまざまな相談を受け付けています。今号では「外国人行政相談」についてご紹介します。

Q. 年間何件くらい相談があるの？

A. 平成6年度(開始年)は132件でしたが、平成29年度は1,177件で約9倍に増えていきます。

Q. どんな内容の相談が多い？

A. 最も多いのは「在留資格」に関することです。滞在期間が長期化していることから「年金」「健康保険」「労働」「国際結婚・離婚」「子どもの養育」などに関する相談も増えています。



Q. 「在留資格」って何？ どんな種類があるの？

A. 外国人が日本に滞在するために必要な資格で、入国管理局が認定します。平成30年12月現在、28種類の在留資格があります。4月からは「特定技能1号・2号」という資格が加わります。詳しくは右の表や入国管理局のウェブサイトをご参照ください。

在留資格一覧(平成30年12月現在)

<ul style="list-style-type: none"> 外交 公用 教授 芸術 宗教 報道 高度専門職(1号・2号) 	<ul style="list-style-type: none"> 経営・管理 法律・会計業務 医療 研究 教育 技術・人文知識・国際業務 企業内転勤 	<ul style="list-style-type: none"> 介護 興行 技能 技能実習(1号・2号・3号) 文化活動 短期滞在 留学 	<ul style="list-style-type: none"> 研修 家族滞在 特定活動 永住者 日本人の配偶者等 永住者の配偶者等 定住者
--	---	--	--

<NICの外国人行政相談>

場所 名古屋国際センター 3階 情報カウンター 時間 火曜日～日曜日 10:00～17:00

※火曜日と日曜日は行政書士、他の日はNICの行政相談員が対応します。

※通訳対応時間については、NICのウェブサイトをご覧ください。(言語により曜日と時間が異なります。)

問 広報情報課 ☎052-581-0100 ✉info@nic-nagoya.or.jp

詳しくはこちらをご覧ください。➡



ぶらりライブラリー

「あなたとわたし」

「言っていることが理解できない」「言葉が通じない」「単語ばかりで会話にならない」。これは他ならぬ、日本人同士の会話について言われていることです。技術革新や環境の変化が著しい今日、世代の違いが文化の違いということもしばしばです。そして、長寿社会に生きる私たちはいくつもの異なる世代間でコミュニケーションをとる必要が出てきました。

最近映画の中でハッと思わせるセリフがあったのでご紹介いたします。「(あなたのことを大切な人だと思うので)例えこの関係が終わるとしても、誤解が原因だった」なんてことにしたくない。ちゃんとした理由を知っておきたい。これを耳にした時、韓国人の友人の言葉を思い出しました。「口論するのはその人とずっと付き合っていくかと思ってる証拠だ。長く付き合っていく人のことは良く知っておきたいし、自分のことも知ってもらいたい」。

もしかしら、コミュニケーションを阻む真の原因は、言語や文化など表層的なものではなく、相手を大切に思う気

特に目的があるわけではないけど、ぶらっと来てみたら、気になることに出合える場所。このコーナーでは毎回NICライブラリーのご紹介をします。

NICライブラリー 名古屋国際センタービル3階 9:00～19:00 月曜休館



左から「わが知らないことから」「対話のレッスン」「世界とわたりあうために」

持ちや他者への想像力の欠如に加え、理解し合えるまでのなんとなくギクシャクする時期を厭ったり、避けたりする姿勢にあるのかもしれないと思い始めました。

来る2月17日、コミュニケーションに関する著作も多い平田オリザ氏(劇作家・演出家)が、当センター主催の「地域の国際化セミナー」*で講演されます。平田氏の著作や講演がコミュニケーションについて理解を深める良い機会になることを願っています。

*「地域の国際化セミナー」の詳細は、本誌12・1月号のP.9をご覧ください。(本誌のバックナンバーはNICウェブサイトでごダウンロードできます。)

クイズ

Q. コミュニケーション(communication)の語源は?

本があるのは… **多文化共生コーナー**

「アコウキ身昇」の「年々」(stunwmooc)とニコミの器へへへ

国際留学生会館から

「チューターとして過ごした日々を振り返って」 —大切なことは相手の立場を思いやること—

愛知県立大学外国語学部4年生 **上垣外 紗英**(日本)



私が最初に国際留学生会館(以下「ISC」)に入居したのは2015年10月でした。チューター*に応募した理由は、これまで培ってきた語学力を生かしつつ留学生の生活をサポートし、交流を通して自分自身も国際感覚を身に付けたいと考えたからです。

入居後は日常生活の相談や通訳、イベントの企画など、自分の生活とチューターの業務との両立で多忙を極めました。目の前のことをこなすことで精一杯でしたが、同世代の仲間とともに楽しく交流することができました。

2016年9月から1年間、交換留学のために英国で生活しました。



▲チューター企画「ランゲージ・エクステンション」にて右から2人目が上垣外さん

異なる言語や文化の中での生活は、寂しさや戸惑いもありましたが、持ち前の積極性で自分らしさを発揮することができたと思います。

2017年9月に帰国し、再びISCに入居しました。自分自身が留学生となった体験が、異文化に囲まれながら暮らすISCの仲間たちの気持ちを思いやる糧となりました。日常生活のアドバイスにおいても、この先彼らに起こりうる出来事や可能性なども想像しつつ、先を見越したコミュニケーションを図っています。

ひとりでも多くの人の役に立ちたい、自分を頼ってほしい。そんな思いで日々彼らと接しています。誰かに頼ってもらえた分、慕ってもらえた分、自らの自信にも繋がりました。彼らが帰国する際には、「紗英の支えがあったから頑張れた、優しく接してくれてありがとう！」など嬉しい言葉もいただきます。そんなときが自分にとってのかけがえのない喜びであり、チューターとしてのやりがいでもあります。

4月からは社会人となります。ますます深まる多文化共生社会のなかで、どんな環境においても、これまでの経験を生かしつつ、様々な人々とお互いに尊重し合いながら、自分自身の能力もさらに磨いていきたいと思っています。

* 留学生の日常生活について助言したり、ISCの事業や運営に協力する学生

国際留学生会館とは…

NICが2001年から管理・運営している、名古屋市港区にある留学生専用の宿泊施設。居室90室のほか、研修室や和室、体育室などを備え、100名の留学生が生活できる。日本文化理解講座の開催や各種相談・情報提供、地域住民との交流などを行っている。

シリーズ

グローバルに活躍する若者たち

「グローバルユース塾 実践編」を振り返って

地球の課題を自分ごととして捉え、身近なところから行動できる若者を育成する「グローバルユース塾」。12月に開催された実践編では、講師に社会起業家であるイノベーションファクトリー株式会社の中島康滋さんをお招きし、「想い」を「行動」へと進化させる2日間の研修を行いました。

* * *

【1日目】課題解決の手法を学ぶ!

エチオピアの現状をテーマに、グループで課題分析を行い、解決に向けたプロジェクトを考えました。ゲストの国際協力NGOホープ・インターナショナル開発機構の松浦史典さんからは、「なぜ?」を使わずに質問を繰り返し、本当の課題を見つけ出す手法「対話型ファシリテーション」を学びました。松浦さんをエチオピア人に見立て、いざ! 質問。最初は事実を引き出す質問があまりできませんでしたが、「ポイントは詳細に聞くこと。いつもは? 普段は?ではなく、最後はいつ? 昨日は? など、時間軸を用いると相手も答えやすいので、事実を引き出しやすい」と松浦さんがアドバイス。繰り返すことでポイントをつかみ、本当の課題に近づいていきました。

【2日目】自分軸をつくり、「想い」を形にする!

自分自身がその課題に関心を持った原体験を振り返り、課題解決までのルートを考えました。社会課題の解決となると壮大で無

力感を持ってしまいがちですが、原体験を軸にすると、身のまわりから考えることができます。ある参加者の原体験は藤前干瀧の写真やカンボジアで見た大量のゴミ。現状を知ってもらい、ポイ捨てする人たちの意識を変えていくプランを描きました。その他のプランもオリジナリティ溢れるものばかりで、考え抜いた成果が見られました。

「自分のできる範囲で一歩ずつ踏み出せば、世の中は変わっていく」と話す中島さん。社会課題に関心を持った若者はこの地域にも多く、関心や想いを行動へと変えていく場をこれからも作りたく感じた2日間でした。



▲考え抜いたプランを持って記念撮影